様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２７ 日現在

機関番号：１７３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ０２１３１

研究課題名（和文）中国帰国者の生成的な境界文化に関する国際社会学・民族誌学的研究

研究課題名（英文）International sociological and ethnographic research on the generative bounder cultures of Chugoku kikokusya(Chinese returnees)

研究代表者
南　誠（MINAMI, Makoto）

長崎大学・多文化社会学部・准教授

研究者番号：７０６１４１２１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,300,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究の研究期間は新型コロナウィルスの影響を受けて、予定の2019年度-2021年度から2019年度-2023年度に変更延長した。新型コロナウィルスの影響で計画していた日本国内外での現地調査が予定通りに実施できなくなったため、日本国内特に九州圏内で調査活動を行った。研究期間中には、本研究の目的である中国帰国者の生成的な境界文化の国際社会学・民族誌学的な研究分析を通じて、中国帰国者をめぐる日中両国の包摂と排除のメカニズムの比較検討を行い、重層的な境界による社会的拘束性と、拘束を受けつつ生活世界を構築していく生成的な境界文化に関する理解を深めつつ、論文等8件、学会発表等14件を公表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
　新型コロナウィルスの影響によって、計画していた中国での現地調査が予定通りに実施できなかったため、所定の研究目的が必ずしも達成できたとは言えない。研究期間中に研究計画を見直し、移動をあまり必要としない調査地―長崎市、九州圏―での聴き取り調査を行いつつ、聴き取り調査データの整理や、日中両国の中国帰国者関連の政策と記事の収集とデータベース化作業を行った。こうして地域での中国帰国者コミュニティに関する理解を深めながら、理論概念としての境界文化の意義等についても再検討し、研究成果を日本語の他、中国語、英語と韓国語でも公表し、研究活動の国際化にも積極的に取り組んだ。

研究成果の概要（英文）：　Due to the impact of the novel coronavirus, the research period of this study was extended from the originally planned fiscal years 2019 to 2021 to fiscal years 2019 to 2023. As a result of the pandemic, planned field surveys in Japan and overseas could not be conducted as scheduled, leading to research activities primarily within the Kyushu region of Japan. During the research period, the study aimed to conduct an international sociological and ethnographic analysis of the generative boundary cultures of Chinese returnees, exploring mechanisms of inclusion and exclusion between Japan and China. This involved deepening understanding of socially binding constraints through layered boundaries and generative boundary cultures that construct everyday life while under constraint. The findings resulted in the publication of 8 papers and presentations at 18 academic conferences.

研究分野：社会学

キーワード：中国帰国者　中国残留日本人　生成的な境界文化　包摂と排除　国際比較研究　地域研究　多文化共生　エスニシティ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

グローバル時代における人々の国際移動が活発化する一方、国際移民を排除しようとする動きも強くなりつつある。その起因は文化的な違いよりも、国民の同一性を要求する国民国家によって想像された「マイノリティの恐怖」(アパデュライ『グローバリゼーションと暴力』世界思想社、2010)、「移民パニック」を悪用する極右勢力といった政治的な動き(バウマン『自分とは違った人たちとどう向き合うか』青土社、2017)や、社会生活におけるリアリティの分断にある。問題解決のために、異なる国籍、人種と言語などを持つ人々が共生できる社会環境の構築が重視されてきたが、最近では他者と出会い直す想像力が求められる(塩原良和『分断と対話の社会学』慶応義塾大学出版会、2017)ようになった。国際移民の研究でも国民国家の境界を所与としてではなく、さまざまな境界の揺らぎに注目することが求められている(伊豫谷登士翁「グローバリゼーションの時代における『国境の越え方』」佐藤卓己編『歴史のゆらぎと再編』岩波書店、2015)。

こうした時代・社会・学術的背景に鑑みて、本研究は、日本人として生まれながらも、日本と中国の政策と社会的包摂・排除によって中国での残留を強いられ、日本に永住帰国してから、エスニックグループとして顕在化していった「中国帰国者」の生成的な境界文化に焦点を定めて研究活動を行うことにした。

２．研究の目的

本研究の目的は、中国帰国者の生成的な境界文化の国際社会学・民族誌学的な研究分析を通じて、中国帰国者をめぐる日中両国の包摂と排除のメカニズムの比較検討を行いつつ、重層的な境界による社会的拘束性と、拘束を受けつつ生活世界を構築していく生成的な境界文化の民族誌を描くことにある。こうした研究活動を通じて、中国帰国者の移動と生成的な境界文化の個別性と多様性を明らかにしつつ、越境する人々をめぐる力学の解明、多文化共生社会の構築や、他者と出会い直す想像力の醸成に関する新たな知見の抽出を目指した。

３．研究の方法

研究方法としては申請者のこれまでの研究成果をもとに、マルチサイテッド・エスノグラフィー手法(multi-sited ethnography)を用いて、一次史料調査の便利さや、満洲移民送出の歴史と中国帰国者の居住人数を考慮して選定した日中両国の複数の地域で資料調査を行うほか、当事者と他の住民、および、関係者への聴き取り調査を実施するとともに、「境界文化」の理論的妥当性の検証を試みる。なお 2020 年の新型コロナウィルスのパンデミックの影響により、調査地域を日本国内とりわけ移動をあまり必要としない地域に変更し、調査手法も主に当事者へのインタビュー調査を中心に行った。

４．研究成果

研究期間中の主な研究成果は下記の通りである。

・今後の研究分析に必要なデータベースを作成した。言説と政策等を分析するためのデータベースを構築し、今後、他の調査活動を踏まえつつ、まとめていく予定である。

・インタビュー調査を通じて、地域における中国帰国者のコミュニティの実態、および、日中両国を跨がる当事者たちの生活世界の有り様を明らかにした。
・日本語だけではなく、中国語、英語と韓国語でも研究活動を行い、研究成果の国際化を試みた。
・新しい研究手法としてオートエスノグラフィーの可能性と意義について検討した。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 南誠	４．巻 第30号
２．論文標題 オートエスノグラフィの実践と中国帰国者のアイデンティティの問い―個人史研究の可能性をめぐって―	５．発行年 2023年
３．雑誌名 日中社会学研究	６．最初と最後の頁 49-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 南誠	４．巻 3396
２．論文標題 書評・海外引揚の歴史化の新たな試み：もう一つの「残留日本人」史？	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『週刊読書人』20210702	６．最初と最後の頁 3-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 南誠	４．巻 72(2)
２．論文標題 書評・ 鐘家新著『在日華僑華人の現代社会学――越境者たちのライフ・ヒストリー』	５．発行年 2021年
３．雑誌名 『社会学評論』2021年9月号	６．最初と最後の頁 173-174
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計14件（うち招待講演　12件／うち国際学会　3件）

１．発表者名 南誠
２．発表標題 中国帰国者のナショナル・アイデンティティを問う：当事者研究の省察を含めて
３．学会等名 カルチュラルタイフーン2022「戦間期から戦後期の北東アジアにおけるエスニシティとトランスナショナリティ:グローカルな視角から問う」（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 南誠
２．発表標題 「中国帰国者2世」という問い:祖国帰還の物語の逸脱者
３．学会等名 九州弁護士連合会主催公開シンポジウム「中国帰国者の取り残された課題の解決と日中友好の展望を考える」（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 南誠
２．発表標題 日中関係と歴史記憶
３．学会等名 日中友好協会長崎県連合会主宰公開講演会「日中関係と歴史記憶」（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 南誠
２．発表標題 ある中国帰国者3世のオートエスノグラフィ --当事者研究をする「私」
３．学会等名 第42回早稲田こども日本語研究会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 南誠
２．発表標題 日中交流における「日本人本国帰還者」の意義
３．学会等名 「日中交流の過去と現在」（日中社会学会冬季集会）
４．発表年 2022年

１．発表者名 南誠
２．発表標題 ある「中国帰国者」の想い：「当事者」として自らの個人史を踏まえて日中交流を問う
３．学会等名 砂川平和しみんゼミ・第4期「中国を知る――東アジアの平和に向けて日中交流を問い直す　第3回」（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 南誠
２．発表標題 拘らないことへの拘り：ある中国帰国者三世の生活世界から見えてくるモノ
３．学会等名 公開シンポジウム「オートエスノグラフィーから見る移民の物語：日本を生きる10人の語り」
４．発表年 2023年

１．発表者名 南誠・李偉
２．発表標題 満州の歴史記憶に関する国際比較研究
３．学会等名 2022年度第３回「植民地期遺産と歴史認識」科研研究会（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 南誠
２．発表標題 長崎から日中関係を考える：ある中国帰国者3世の立場から
３．学会等名 長崎県地域・自治体研究所2月例会「長崎県民は中国とどう向き合うか―歴史記憶から日中友好と帰国者2世問題を考える」（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 南誠
２．発表標題 「中国帰国者」の境界文化の可能性に関する一考察
３．学会等名 異文化間教育学会特定課題研究「異文化間教育実践における社会の共創―葛藤を抱えつつ―」に関わる講演会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 南誠
２．発表標題 「引揚」と「帰国」の境界生成に関する一考察――戦後の日中関係を踏まえて
３．学会等名 公開セミナー「『引き揚げ』再考」（於北海道大学）（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 南誠
２．発表標題 多民族国家日本的歴史形成和東亜関係(中国語)
３．学会等名 第9回東北論壇--東北亜新格局下東北辺彊機遇、潜力与未来学術検討会（於中国ハルビン市）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 南誠
２．発表標題 戦後日本と本国帰還者との関係について
３．学会等名 国際会議「日本とドイツの引揚者・帰国者の戦後」（満蒙開拓平和記念館）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

１．発表者名 南誠
２．発表標題 長崎をめぐる海洋社会の展開に関する一考察：「満洲」を手がかりに(中国語)
３．学会等名 和平之海：東亜歴史与未来（於中国海洋大学・青島市）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2019年

〔図書〕　計5件

１．著者名 南誠	４．発行年 2022年
２．出版社 くろしお出版	５．総ページ数 255
３．書名 「『当事者』研究をする『私』のオートエスノグラフィ：カテゴリー化をめぐって」川上郁雄・三宅和子・岩崎典子編『移動とことば２』	

１．著者名 南誠	４．発行年 2023年
２．出版社 Routledge	５．総ページ数 288
３．書名 The boundary formation between “hikiage” and “kikoku”: the case of the “honkoku kikansha” from China　Svetlana Paichadze, Jonathan Bull　End of Empire Migrants in East Asia Repatriates, Returnees and Finding Home	

１．著者名 南誠	４．発行年 2022年
２．出版社 くろしお出版	５．総ページ数 255
３．書名 川上郁雄・三宅和子・岩崎典子編『移動とことば２』　「『当事者』研究をする『私』のオートエスノグラフィ：カテゴリー化をめぐって」	

１．著者名 南誠「中国帰国者--『祖国帰還の物語』を越えて」	４．発行年 2020年
２．出版社 明石書店	５．総ページ数 208
３．書名 駒井洋・小林真生編『変容する移民コミュニティ』	

１．著者名 南誠「日本の外国籍住民の歴史と境界文化の可能性」	４．発行年 2023年
２．出版社 図書出版ソニン	５．総ページ数 576
３．書名 Kwon Kyung-sun、Koo Ji-young、Kim Yoon-hwan『東アジア海域における移住と社会』（韓国語）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関